

評価指標	評価欄	評価内容				評価基準			
	自己評価	「評価項目」①の達成度				75%以上達成…A、50～74%程度達成…B、20～49%程度達成…C 20%未満達成…D			
	全校自己評価	「自己評価」②のB以上の割合				9割以上…A、7割以上…B、5割以上…C、5割未満…D			
	学校関係者評価	「全校自己評価」③、「成果と課題及び改善策」④の適切度				適切である…A、ほぼ適切である…B、あまり適切でない…C、不適切である…D			

	評 価 項 目 ①	自己評価②(%) 職員による評価A～Dの割合				全校 自己評価 ③	成果と課題及び改善策 ④	学校 関係者 評価	意見等
		A	B	C	D				
学力向上	学力を身に付けさせるための教育課程の編成を行うとともに、学校、学級経営の目標を明確にし、わかる授業、学ぶ力や学ぶ姿勢を育む授業、探究的活動をととして、魅力ある学校づくりを推進する。	42	51	6	0	A	本校の多様な進路目標を持つ生徒に対して、習熟の程度に応じて指導する教育課程となっており十分目標が達成できるものになっている。新教育課程が完成年度となり、シラバスおよび評価法を検討した。シラバスについては実際の運用を通して、改良すべき点を洗い出し、生徒の実態に応じた再検討をする必要がある。「主体的に学習に取り組む態度」の評価法に関しては、各教科試行錯誤しながら研究している状況であるが、生徒の学習意欲を高める評価となるようさらなる研究が求められる。県教育委員会の学校訪問の期間だけでなく、年間を通して多くの先生方が公開授業を行い、ICTや評価法に関することなど他教科の授業も参観しながら、学びを深める機会となった。ICTの利用法を中心に、教科横断的な授業の推進をさらに動めていきたい。百問繚乱の利用法に関する研修会を開き、その利用の促進を促すことが出来た。授業でのICT機器の利用も全体的に高くなっているが、個人差がある。教科の特性もあるだろうが、どのような活用を目指しているかを確認しそのニーズに応えていきたい。	A	授業公開が活発に行われているのは良い。続けて欲しい。
	自立した人間に育てるために、『凜姿』を中心とした礼儀マナーの徹底を図り、基本的な生活習慣の確立をめざすとともに、生徒の自治活動を支援し、学校行事等の自主的な運営を推進する。	39	54	3	3	A	生徒会活動の自治活動を全面的に取り入れることを目標において、昨年度よりさらに生徒が主体となった実行委員会の組織が行事等で運営企画し、成功を収めることができた。「R7年度ヘルメット着用」の協議や啓発活動では、生徒会・代議委員・交通安全委員会を中心に取り組むことができた。今後の課題は、全職員で今一度、時間厳守や礼儀・マナー指導等を統一して指導できるような体制づくりに努めていきたい。また、来年度は、「自転車乗車におけるヘルメット着用」についての呼びかけや「校則（風紀関係）」「学校いじめ防止基本方針」「危機管理マニュアル」等の見直しについても生徒の意見を取り入れ、生徒が主体的に活動し、活躍できるような環境づくりに努めていきたい。教職員も見守りやフォローを大切にしながら、生徒を支援していきたいと考えている。	A	自転車ヘルメットについては早期の対応をお願いしたい。
	教育相談、特別支援教育の充実を図り、生徒の学校生活を支援する。	69	30	0	0	A	関係職員と早い段階から連携を取り、深刻な状況になる前に対応を始めることができた。必要に応じてSSWやSCなどの専門職とも連携し、適切な助言を受けながら組織的な対応をとることができた。次年度は教育相談の機能をより充実させ、日常的に生徒面談の機会を多く設けるとともに、生徒が相談しやすい環境作りをすすめたい。また、教員のニーズにあった職員研修を実施し、学校全体で特別支援教育に取り組む働きかけをしていきたい。	A	
進路保障	生徒の自己実現のために、生徒が将来の目標や夢に向かって、地域活動等を中心としたキャリア教育を推進し、進路指導の充実を図る。	57	36	6	0	A	生徒の自己実現を支援するために、地域活動を軸としたキャリア教育の推進を今年度も取り組んできた。生徒は地域の課題解決に取り組む探究活動を通して、生き方・在り方を考える実践的な経験を積んでいる。こうした取り組みに加え、進路指導の面においても、個別相談の充実やキャリアガイダンスの強化を図り、生徒一人ひとりの希望に応じたサポートを充実させることも今後強化していきたい。進路選択も多様化していく中であっても、生徒がより主体的に進路実現させていき、本校だからこそできる進路指導を今後も築いていく必要がある。	A	電子図書なども含めて、生徒の実態についてアンケートを実施して欲しい。状況把握を行った上で取組を検討して欲しい。
	豊かな教養を醸成するためのICTを活用したオンライン講座や読書活動を推進する。	42	48	9	0	A	DXハイスクール事業の指定を受け、デジタルを活用した課題解決を進めるカリキュラム開発に取り組んできた。次年度以降は、各学年での探究などの取り組みにデジタルスキルを活かしたものが出てくるよう学校全体で取り組んでいきたい。読書活動に関しては、今年度新たに、各個人に「図書館利用証」を発行し、生徒がいつでもセルフ式で借りられる体制を作った。図書館の貸出冊数増加につなげるため、今後は館内設備や展示方法の充実に努めていきたい。	A	
心身の健康・安全	豊かな学校生活を送るために、心身の健康増進に努めるとともに、人権意識を高めるための教育活動を推進する。	36	57	6	0	A	生徒達が自己管理しやすいように、教室入り口に消毒液と換気のための二酸化炭素測定器各クラスへ設置している。また、毎日の健康観察を始め保健室不在時の対応、行事ごとの救急対応等を周知し生徒とともに心身の健康増進に努めることができた。年3回の人権学習を通して、幅広い題材を扱うことができた。次年度は生徒の所感や職員アンケートを反映させ、内容や指導案を改善していきたい。また同和教育に関して、全職員が同じ理解度で指導できるよう事前の研修会等を開催したい。	A	清掃時間が10分間では厳しいのではないかと。学校外の力を借りる方法も検討しても良いのではないかと。
	校内外の環境整備に努め、生徒の自立した清掃活動等を推進する。	15	69	15	0	B	今年度は、先生方の業務精選のため各清掃場所の清掃分担表及び清掃手順表の掲示を任意にしたが、職員による自己評価が低くなっているのて清掃指導の徹底及び生徒の責任を促す意味で再開した。職員の担当箇所が複数になり、清掃指導が十分に行き届かない場所がある。10分間の清掃時間を生徒達が効率的に行う手立てを考えていくことが課題である。安全点検行い、事務に御協力を頂いてできる限り速やかに校舎内外の環境整備に努めている。また、清掃用具等も頼まれたらすぐに準備している。花壇及び校内の樹木剪定等も事務の御協力により計画的に行えた。	A	
地域社会や保護者との連携	コミュニティ・スクールの実施に伴い、地域、行政等との連携を深め、学校運営協議委員と協働して学校運営に当たり、教育の充実と健全な人材育成を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。	42	54	3	0	A	今年度のPTA総会にて「母親研修会」を「家庭教育委員会」、「全国卒委員会」を「全国卒交流委員会」と名称を改めた。増え続ける全国卒生の保護者の自治力を活かす場として機能が高まることが期待される。また、地域との連携の一例として、「門松作り」が挙げられるが、多くの方の協力を得て、今年も立派な門松が正門前に完成した。今後は、ヘルメット着用へのご理解や、次年度の「県高P連県南ブロック大会」、「飯野高校創立60周年記念事業」などを見据え、さらに、学校、保護者、地域の連携が重要となると考える。これまで探究活動と並行する形で防災活動を中心に行ってきたが、本年度はそのテーマで探究する生徒がおらず停滞してしまった。次年度に期待したい。11月に学校運営協議委員による探究活動の授業参観や、生徒会役員との未来カフェを行った。未来カフェでは、3年後の飯野高校のために段階的に何をすべきかについて意見を交わし、非常に有意義な時間が作れた。もっと生徒の参加者を増やし、委員と同じ目線で飯野高校について考えていけるように継続していきたい。	A	職員との交流の機会を増やして欲しい。
教育諸条件の整備、安全・安心な学校づくり	生徒の防災意識の涵養を図るため、学校内外における防災計画の整備や危機管理体制を充実させるとともに、地域における学校の役割を十分果たせるよう地域とともにある学校づくりを推進する。	24	69	6	0	A	今年度は4月と12月に防災避難訓練を実施した。4月は地震を想定し、生徒会を中心に避難経路の確認など自治的な活動をめざした。12月は地震と火災を想定し、消防署の方より指導・講話をいただき、消火器を使い消火訓練も実施した。11月には交通安全教室を行い、警察署の協力も得ながら、自転車ヘルメット着用の重要性と着用実施に向けて意識を高めることをめざした。2年生は12月の修学旅行で福島県を訪れ、震災遺構や伝承館を見学したことで、災害への備えについて意識が高まったと思う。それを周囲に還元してほしいと思う。大きな災害に備えて、「危機管理マニュアル」も連絡手段等、定期的な見直しを行い周知していきたい。地域とも連携して防災計画など取り組めるものは前進させていきたい。	A	地域と連携して防災の取組を計画して欲しい。生徒の探究活動とは別に、計画をして欲しい。
小中高一貫教育	小中高一貫教育や中高連携の取組を充実させることで、地域への愛着や誇りを育み、また地域社会に貢献・支援する活動をととして、地域の発展のみならず、地域発展の核となる学校づくりを推進する。	69	30	0	0	A	小中高一貫教育については、知・徳・体の各向上部会が昨年の反省をもとに小中の先生方と協議を重ね計画を行った。先生方が小中高を通して育てたい児童生徒の姿を明確に持ち協力して取り組んでいる。活動の事前指導や事後アンケートの分析等もしっかり行われていた。本校の探究の活動を発展させた取組もあった。えびの学の取組についてもジョブシャドウイング、仕事図鑑の作成は計画的に行われた。地域貢献活動、地域探究活動、地域支援活動について協議する職員研修を行うことができた。	A	
普通科改革推進事業 教職員の働き方改革	新しい時代の高等学校教育の在り方を追求し、それを実現する教職員の育成を図る職場環境を目指すとともに、教職員の働き方に関わる視点も併せ持って学校づくりを推進する。	27	63	9	0	A	「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の3年目として、新しい飯野高校の普通科のカリキュラムと学校独自の科目「地域学」の研究を進めることができた。また、昨年度に引き続き職員研修については十分な時間を設定し計画的に行うことができた。内容についてもDXハイスクールの事業と探究活動を関連させたものも行うことができた。本校職員が教科を超えて日常から挑戦や研修を行う姿が見られる。本校の強みとなってきた。探究の学びを国内外へ広げ挑戦する生徒が増え、加えて台湾の中華医事科技大学との連携協定により研修の機会があった。本校の特色について魅力発信に努めた。メディアでも数多く取り上げられ、夏のオープンスクールでは昨年の1.5倍の参加者であった。	A	飯野地区以外にも交流の機会を広げて欲しい